

2006 年度 早稲田大学・商学部 9 月入学試験の講評

I. 読解問題。設問は、「内容一致問題」と「空所補充問題」が中心。昨年の「該当箇所の語彙の意味を問う問題」は姿を消した。英文の総語彙数はかなり少なくなり、難易度も低下したと思われる。昨年よりは解きやすかったであろう。テーマは昨年と違い、多岐に渡った。人文、社会、自然科学系に加えて、スポーツの話も出題された。基本的には人間科学部の読解問題に近いが、5. などは政治経済学部の選択肢を想起させる。「空所補充問題」も人間科学部にはない設問形式なので、独自路線を歩む兆しなのかもしれない。

II. 空所補充形式の文法問題。昨年と同様 15 題であるが、一部の前置詞問題を除いて、全体的には易化したと思われる。今年度の最大の傾向は、昨年の語彙問題が姿を消したということだろう。かなりの難単語が選択肢に並んでいたが、今年は一切この種の問題は出題されなかった。ただ、今年度は前置詞問題が増えたので、今後は前置詞対策が重要となるかもしれない。2 月入試でも半数近くの学部で前置詞問題が出ることを考えると、この傾向は続く可能性は高いだろう。

III. 正誤問題。昨年と同様 10 題であるが、昨年より若干易化したようだ。また、人間科学部の正誤問題と違い、NO ERROR がないだけ、楽であると言えよう。ただ、この問題は、間違った部分に気づくことが重要なので、慣れるためにも、人間科学部の問題をできる限り解いてみるのがいい勉強になるだろう。

IV. 自由英作文。今年度は、「21 世紀の人間社会に直面する最大の問題」が題目であった。昨年は、「貧困の原因が人間にあるのか、また人間の行為によって克服できるのか」を問う問題。また、2004、2005 年度の問題は、「新聞・雑誌の情報とインターネットの情報でどちらがいいか」「テロの行為に対処するために個人の自由は犠牲にされるべきか」が題目であった。早稲田大学 法学部、国際教養学部を含めて、すべて社会問題がテーマとなっている。今回のテーマは大きすぎるようなテーマであったが、今後もまず社会問題が出題されると思われるので、常に問題意識を持って理由などを考えておくといいたいだろう。さらに、問題の部分が reasons と複数形になっていることや、解答用紙の行数から少なくとも 100 語以上は書かないといけないことも頭に入れておこう。